資料３－２

西大台地区の自然の概況

１．地形・気象

大台ヶ原は台高山系の南端に位置し、日出ヶ岳を主峰とした標高 1,300m～1,695m にわたる地域で、非火山性隆起準平原であり、日本で希少な地形として注目されている。この台地状の地形の南側などには大蛇嵓、千石嵓などの断崖絶壁が形成され、台地から落ちる東ノ滝、中ノ滝、西ノ滝は東ノ川に流れる。

また国内有数の多雨地域で、年間降水量は約 4,800mm と多い。

２．植　生

大台ヶ原の植生は、主に亜高山性針葉樹林と冷温帯性広葉樹林から成立している。

そのうち標高 1,550m以下の西大台は、西日本でも貴重な太平洋型ブナの優占する冷温帯性広葉樹林がまとまってみられる地区である。

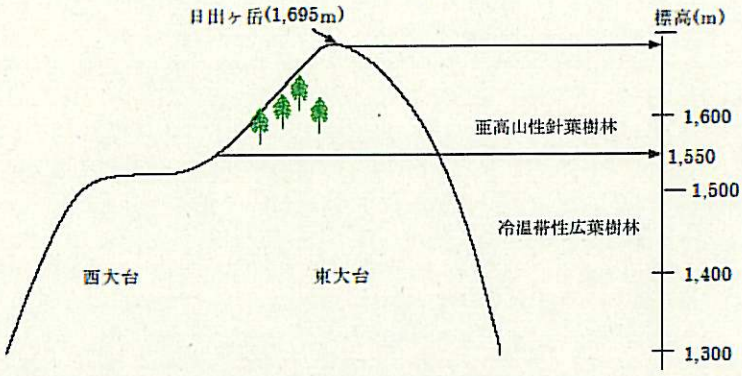


図１　大台ヶ原の植生概況

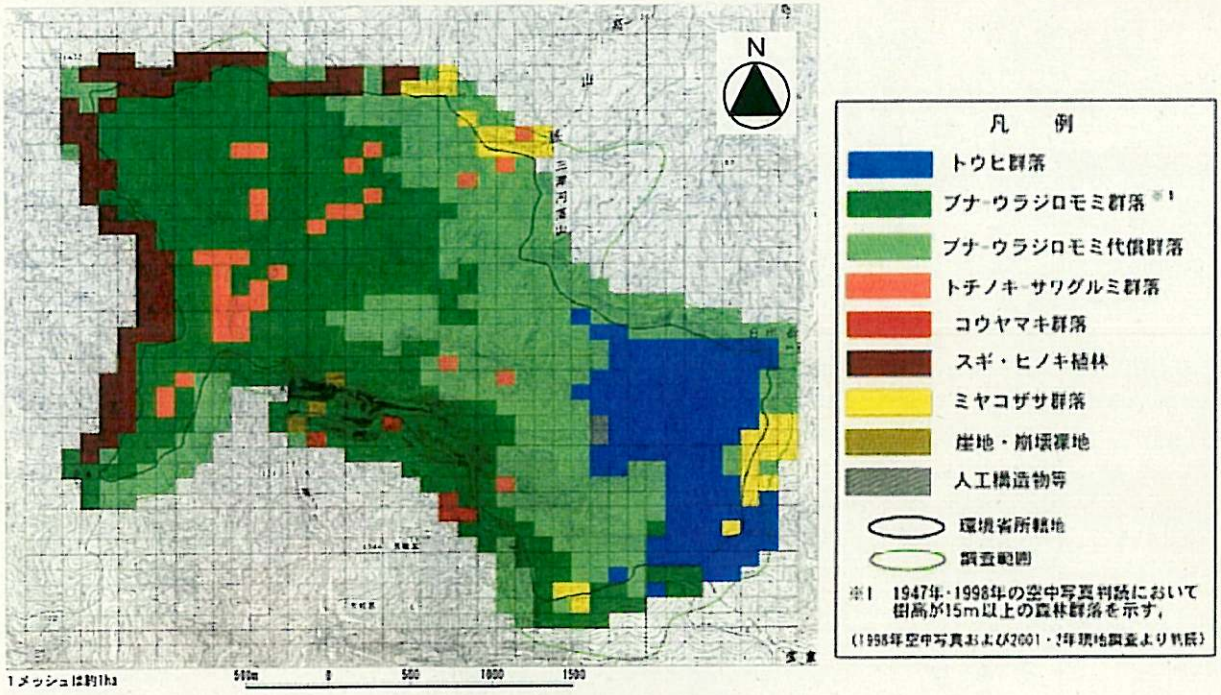


図２　植生現況図（2002 年）

３．生物相

大台ヶ原では以下（１）～（６）に示す動植物が記録確認されており、その中でも特に西大台は、生物多様性の優れた地区として注目されている。

（１）植　物

日本有数の多雨地帯であり、湿潤で冷涼な気候が特徴で、冷温帯性植物、着生植物、岩崖性植物が豊富であり、北方系の遺存植物や山岳性の植物が多い。また岩場には、オオダイトウヒレンやハクロバイが生育している。これまでにコケ類を含め、45 科 860 種が記録確認されている。

（２）哺乳類

ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンジカなどの大型哺乳類をはじめ、レッドデータブックでは準絶滅危惧種とされ国の天然記念物にも指定されているヤマネや分布上注目されるヤチネズミ、クロホオヒゲコウモリやノレンコウモリなどのコウモリ類など、これまでに合計 7 目 15 科 37 種が記録確認されている。

（３）鳥　類

ルリビタキ、メボソムシクイ、ビンズイなど主に中部地方以北で繁殖する鳥の西日本での数少ない繁殖地となっており、これまでに 11 目 32 科 97 種が記録確認されている。

（４）爬虫類

ジムグリやヤマカガシを含む 2 目 5 科 9 種が記録確認されている。

（５）両生類

大台ヶ原が新種記載の際にタイプ産地となっているオオダイガハラサンショウウオやナガレヒキガエルなど 2 目 6 科 17 種が記録確認されている。

（６）昆虫類

昆虫類は種類が多いため全貌は明らかになっていないが、大台ヶ原を代表に紀伊半島の山地にしか産しないものとして、オオダイルリヒラタコメツキやセダカテントウダマシなどが挙げられる。また、大台ヶ原がタイプ産地であり、その名に「オオダイ」を冠している種も少なくない。

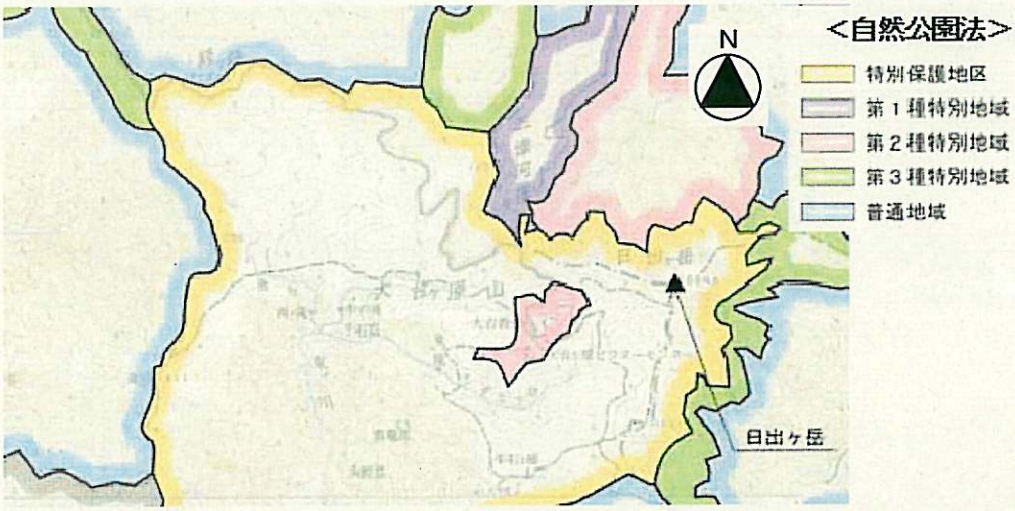
写真１　ニホンジカ

写真２　オオダイガハラサンショウウオ

4．関連法令等の指定状況

（1）自然公園法

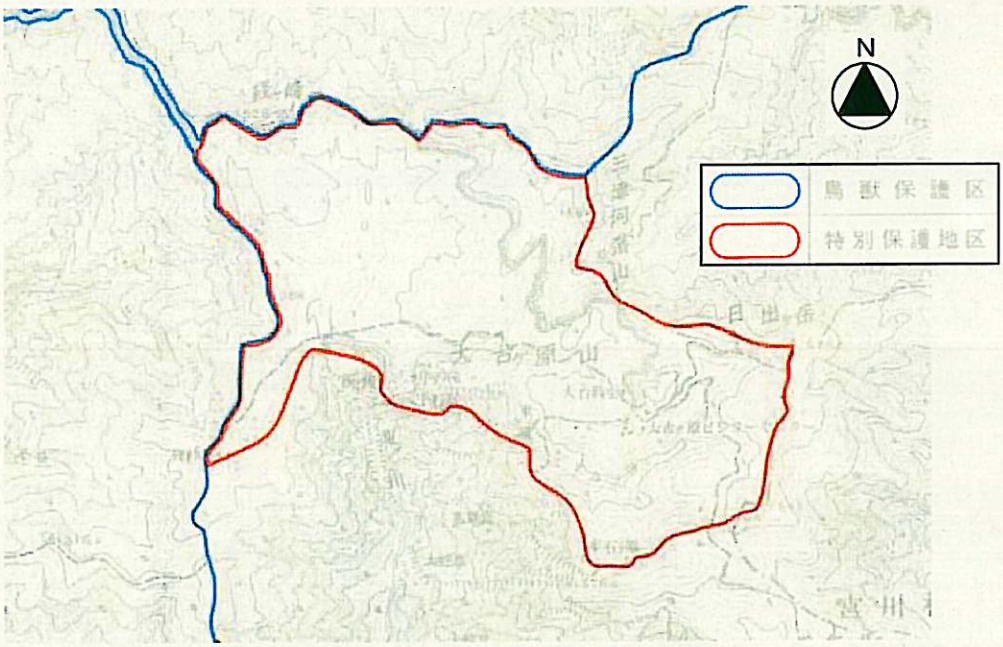
大台ヶ原の大部分は吉野熊野国立公園の特別保護地区（＊1）に指定されている。なお、大台ヶ原ドライブウェイ終着点の周辺 24.1ha は、利用者の拠点として集団施設地区（第 2 種特別地域）に指定されている。



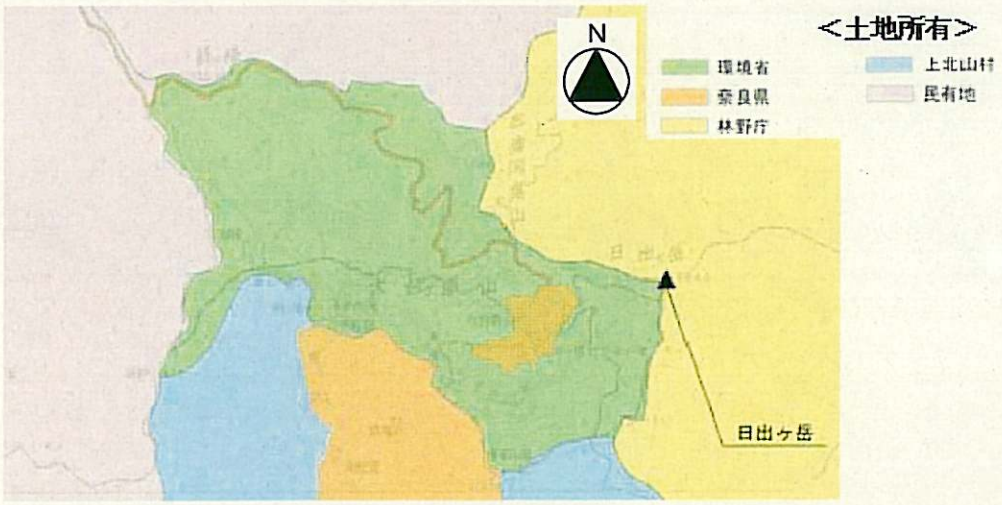
＊1 特別保護地区：特定の自然景観が原生的な状態を保持している地域など、特に厳重に景観の維持を図る必要のある地区。

（2）鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

大台ヶ原は、その全域が国指定大台山系鳥獣保護区の特別保護地区（＊2）に指定されている。



＊2 特別保護地区：大規模生息地や希少鳥獣生息地など、鳥獣の保護又は鳥獣の生息地の保護を図る上で、特に良好な生息環境の確保が必要な地区。

（３）土地所有現況

大台ヶ原の土地所有は、集団施設地区（奈良県有地）及びドライブウェイ（県道）を除き、環境省の所管地となっている。また周辺地域については、林野庁、奈良県及び上北山村の所有地となっており、国・公有地化が進んでいる。